

コホミン DE クリスマス

めるへん文庫

朗読劇

2025年
12/25 木

クリスマスは家族で子供達が描いたメルヘンの世界でほんわかしませんか？「めるへん文庫」の世界を素敵な朗読とピアノ演奏でお届けします。

プログラム

我孫子市めるへん文庫受賞作品集 第22集より

- ①「イルカの魚助け」小学生の部 1席作品
朗読 前原安世
作者 西原山翔（我孫子市 小学4年生）
演奏曲「崖の上のポニョ」
- ②「二人のヴァイオリン弾き」高校生の部 1席作品
朗読 上杉桂子
作者 石川青（横浜市 高校3年生）
演奏曲「大きな古時計」
- ③「黒猫とピアノ」令和6年度最優秀賞
古登正子賞受賞作品
朗読 上田一江
作者 久野晴香（我孫子市 中学1年生）
演奏曲「ありがとう」（いきものがかり）

時間 ※12:30開場

13:00～14:30開催

定員 200名

入場料 1人500円

（自由席・小中学生無料）

申込 12月1日(月)から先着順
電話もしくは直接窓口へ

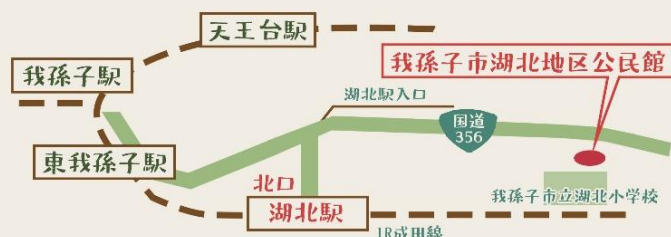
↓
湖北地区公民館（コホミン）

〒270-1122 我孫子市中里81-3

TEL:04-7188-4433

FAX:04-7188-7720

総司会&解説 稲村隆
ピアノ演奏 飯田晴美





めるへん文庫

上演作品紹介

01

イルカの魚助け

ガラクタ集めが大好きな元気なイルカが、
海の仲間を助ける大活躍。

ここは水深約十メートルの、まだ太陽の光が少し届く浅い海の底。海底の砂は白くて、全体的に明るく見える。砂底の一部に岩場があって、サンゴや流木、貝などが集まっている場所があった。他にはシーグラスや、人が落としていったであろう、釣りの道具や、ダイビングの道具、サーフボード、ペットボトルやビニール袋のゴミなんかもある。こんなきれいな海の一部に、そんなものが集まっていて、誰かが掃除でもしたのだろうか。

02

二人のヴァイオリン弾き

森で気ままに過ごしていたエーネが、ある日、
友達になったギドンとともに街に出た。

その男は森のヴァイオリン弾きだった。かつて木こりが使っていた古い小屋を住处として森のはずれに一人で住んでいた。自分で作ったヴァイオリンを奏でて気ままに暮らしていた。名前をエーネといった。その音色は美しく、小鳥たちに奏でれば、お礼に木の実を持って来た。動物たちに奏でれば、お礼に果物やキノコを持って来た。蜜蜂はお礼にハチミツを持って来た。こんな具合なのでエーネは働かなくともものんびり暮らすことができた。そんなある日、この森に一人の男がやって来た。その男は街のヴァイオリン弾きだった。名前をギドンといった。

03

黒猫とピアノ

嫌われ者の黒猫と、忘れ去られた黒いピアノ、
二人の友情が起こす奇跡の物語。

嵐が来た。ざーっと音を立てて大粒の雨が降ってきた。人はみなそれぞれの家に逃げ帰り、やがて通りにはずぶ濡れのボクを除いて誰もいなくなった。寒さに震えながら、どんよりとした暗い空を睨む。この街で黒は不吉な色で、ボクみたいな黒猫は嫌われる。まったく、ボクが何をしたっていうんだ。